

椿説弓張月

後篇

六

13  
2945  
12





門へ 2945 卷 12

特

鎮西八郎 椿説弓張月後篇卷之六

東都

曲亭主人編次

第九九回

朝稚主後を幣に導きとて遠く西海の果にあり。豊後と肥後の境  
 あり。宮原城より過ぐ。阿蘇のかゝとゆくほどに。時員驟み心痛し。  
 こゝに死ねばとおげえし。こゝに志が勵し。後とて歩めども千の  
 剛敵をえり。肩とせがれ勇士も病中を務がてて動され。後とて  
 朝稚えりて宣ふ中。や。時員汝がまき今朝より悩まげよええと  
 顔のまもほとく。臥房のふかた旅寝とす。夜の衣人薄れ  
 風邪を冒され。おのれおのれとぞ。まじし彼処の樹の下に憩ひ。保養

春兎子長月後篇卷之六

昭和九年七月九日 辨末



せまゆしと宣へむ。時員と杖を植へ息を吐つ僕らの二三日と心持倒るる  
 ぶらひしがかきとせば稚君のこころ便かおぼさる聖にあたり果ん  
 うして病を推くさすをいしう。病苦頻りにやゆして。いふももて  
 なし。されどおぼしきまをひて神を結らる。今宵の歌をてやひらぐ  
 いざ。わが易くおぼしめせし。いふも苦しきまをひて。朝稚君を  
 驚れ愁ひ。かてせむ。昨夜の宿りに逗留す。醫師も診ふたを  
 このまゝに湯をいそぐ。何ごも便し。夕露をぬくとも  
 けが樹の蔭に憩ひしよ。と信中に勸めし。芽萱うらうらつ。まは  
 けし。時員が居る。懐より茶とり出す。飲したまは。時員感謝し  
 堪じし。不覚に涙涙。旅なればこそ。稚君に。草の細み布し。ま  
 り親をり。賜れこそ。冥加のまじりて。かたし。下野と出さし。

露も宿り風に梳了。長汀曲浦。雁が音とけくは。故郷へ遣らん玉章かと  
 えな。父が送れ鐘の声。雨も曇りし。遠樹の蔭。腸を断る。まがれ  
 不孝行せ。勝と。なまか。これをば憂も。あまら。歩と。ぬれ。は。昔  
 塚の下に。在。踏。遥。ま。は。紅日の影。惜。え。出れ。も。入。り。も。時員  
 杖も。柱。と。たの。おぼ。ま。い。ひ。な。も。病。煩。ひ。も。却。稚君の  
 勞。受。も。れ。こ。心。苦。し。けれ。と。か。は。説。け。強。く。あ。か。ん。と。と。れ。み。歩  
 こ。ま。だ。び。め。や。常。か。た。世。の。た。づ。ま。ひ。と。今。更。驚。く。ゆ。し。も。め。ら。ね。ど。ま  
 身。の。ま。ま。に。黄。泉。の。人。と。な。れ。ま。は。聖。より。と。稚君の。誰。と。よ。と。か  
 み。ゆ。た。り。の。還。り。も。あ。ま。ら。べ。た。ぬ。ま。痛。し。や。と。り。ぐ。え。に。い。ら。ね。ど。ま。ま。ら。み。お  
 わ。り。れ。る。憂。も。迫。れ。ば。病。着。の。重。れ。首。と。め。ぐ。ら。ぬ。れ。小。草。の。上。に。轉。輾  
 ぐ。文。蝨。三。つ。四。つ。飛。出。る。裾。の。の。り。に。鳴。虫。の。声。も。忽。地。奴。ら。り。けれ。朝。稚。君。



にほほしく抱き起して脊に拵時員とらはいくもぞや。そなたが死なむ  
 いうゆへに。その長旅とむりせん。かれ病と氏神も救ひもつたよしなれ  
 り。主従が忠孝が神も哀とえさるるは。駿つてせまくと祈念しつ。を  
 けそげにええなまふ。時員と牙の若しはより。稚君のおん性方。やゆえ  
 かやゆえん。とおひや。経胸くじく。やゆえに。此と接時員いづて。死を  
 きたそ。水の中は。柳のむく。飲むやとおひくも。これえあふに。何とといふ  
 朝稚ら。流矢のむく。よ末の露と揮よせつ。紙も湿して。残り入道時員  
 飲し。えん。これが末期の水をふんと。おひかい。よよりゆく。と病の中に。やと  
 合し。物体がやともいひ。われ。苦惱と固ふ。泳倍たり。浩如小梅の端。大  
 らやうなれ。魚籃や。網索うく。拵提を肩に。海鯨鮮刀。小腰に。帯て  
 ぶれ。のり。これ。蜘蛛の渦丸なり。その癡者。いある。嘉慶二年の秋。濱  
 越

の逢日。由て大宮司。季範が。船が。切せ。夜影の支黨と。為朝。小刺。され。その  
 牙の。浪の。底に。潜りて。から。じて。脱と。去。西海道を。徘徊。近曾  
 との。けり。に。のり。と。い。支黨。な。り。り。て。後。果敢。し。し。る。も。あ。い。じ  
 け。も。假。小。漢。を。と。として。よ。流。つ。放。小。拳。動。く。バ。人。こ。る。懶。の。お。と。く。増。之。野  
 の。と。く。怕。と。り。か。くて。渦。丸。と。の。日。直。入。の。入。江。小。漢。獵。せ。い。ご。こ。る。獲。も  
 形。日。も。西。の。海。ほ。に。没。なん。と。そ。れ。経。小。棹。揚。釣。を。収。め。目。今。この。処  
 へ。こ。れ。と。て。時。員。が。道。次。小。病。臥。を。入。又。朝。稚。の。員。少。年。な。れ。た。て。  
 忽。地。中。よ。か。ら。ぬ。と。流。發。り。この。旅。客。を。平。人。か。あ。ら。び。お。ひ。ふ。み。よ。め。した。人  
 の。家。難。中。か。づ。ら。ひ。く。故。郷。に。逐。電。し。主。従。か。く。寔。に。した。旅。が。さ。れ。お。こ。そ  
 め。ん。な。れ。あ。ら。ば。彼。が。懐。小。物。の。れ。に。俱。した。れ。男。を。勇。く。え。ゆ。れ。と。病。煩  
 へ。を。打。殺。さ。も。いと。易。かり。かん。され。と。流。れ。ふ。と。く。は。は。し。や。う。這。奴。と。結。果



く。路浪を棄つ。さて彼は少年を大判の行童なごに賣らば。是彼十二分の酒價をばつ。さうなりくと。肚裏に計較する。流の中に笑を合。少しゆた。これおのらしく。ゆび時員とえ。りのあまを悲や。さうさ。な。旅を。憐れ。の。な。病。人。も。少年。の。は。さ。あ。後。を。か。め。が。家。の。急。な。濟。の。良。業。の。年。暮。人。の。旅。して。試。お。お。その。切。神。の。お。じ。少年。も。れ。も。に。其。中。に。進。く。さ。べ。た。お。と。り。を。朝。稚。飲。で。え。り。お。さ。う。里。遠。た。と。な。り。て。猛。小。侶。の。病。目。な。れ。が。醫。師。を。招。く。に。は。し。ま。し。其。許。の家。路。遠。く。は。誘。く。人。の。薬。な。ま。り。れ。と。さ。う。の。時。員。は。さ。う。お。じ。記。し。ゆ。それ。の。不。覺。なり。今。あ。ど。し。に。憇。心。持。清。中。あ。そ。う。り。ぬ。へ。た。え。も。あ。り。ぬ。人。の。信。れ。た。も。り。ん。の。究。く。よ。ろ。か。じ。と。て。階。は。渦。丸。町。と。う。ら。笑。ひ。な。ど。て。か。く。人。を。疑。ひ。さ。う。も。ど。が。家。と。さ。う。さ。八。九。町。は。過。も。

常言ふ旅を伴侶世と側隠とをいふが。これ結業の久さおのら。さ。て。あ。て。も。進。く。は。さ。う。れ。と。家。の。老。れ。母。推。し。見。え。り。て。走。り。ま。り。と。く。あ。り。せ。ど。は。れ。を。一。片。の。誠。心。な。り。て。病。苦。致。救。ひ。進。く。せ。ん。と。お。り。お。固。辞。く。ま。り。強。て。い。い。し。鈍。ま。や。暮。る。に。移。も。な。れ。秋。の。日。は。虚。く。と。み。め。ば。猛。獸。山。客。の。勢。い。な。り。ん。や。よ。か。れ。人。に。か。げ。ら。ひ。も。可。惜。向。費。く。ら。り。と。嘆。れ。阿。菴。の。か。へ。走。り。ま。り。ね。朝。稚。と。あ。じ。し。お。お。目。送。り。て。時。員。に。宣。ふ。中。彼。男。の。面。魂。い。と。お。ろ。く。し。し。且。ど。人。を。面。乃。は。悪。成。ん。と。その。あ。ろ。く。さ。う。が。じ。そ。し。か。の。家。に。業。前。に。お。病。ま。地。お。愈。れ。こ。の。あ。ら。ば。これ。お。の。ま。は。お。ろ。く。に。お。氏。神。の。冥。助。あ。く。さ。れ。妙。法。授。く。ま。あ。や。あ。ん。ど。ん。彼。ら。も。遠。く。は。ゆ。じ。し。て。守。ま。て。ん。と。い。ひ。も。め。ん。ど。忙。し。く。追。蒐。た。ま。ん。ど。時。員。を。か。へ。と。め。り。と。さ。



春説弓辰月後高巻之六



時員  
路不病て  
漏九子  
殺さる







と引抜渦丸が向騰尻難んとさされ尻跳こそく丁と蹴り。泥足揚て時員  
が刃を踏居て動せと眼が睜声かありま小賊は言可嗟や。これ四圍  
のりてゐ。蜘蛛の渦丸と叫れ支堂教十人を集めてよろづ殺しおりの  
いざばらにこえ進んだるは。さうれ小故めつ。支堂は喪ひ具くく毒  
そとくとも。お尻居こく木偶が毀より易し。いざとの世の暇とくさ  
といひものゝこ刀の鞘が奪ひ取。時員が呪が大地へごとと刺とせ  
鮮血あきび漬り。手足が同強く死よりけれ。嗚呼悲れくる痛くた  
正お是万里の黄泉旅店なく。之魂六魄誰が家お落ん。いとも墓か  
最期なり。そのとれ渦丸と刀の血が拭ひおさめ時員が衣服は浪と棄  
ひとく。網の外より魚籃がと。呪は少事かふる。驚鳥は怖れ  
せも。これ決して女を殺した高野大師の密結を甘ざれ大判の店後

に佳の。いよと稀なれ獲りて。今魚と人魚と両まぐ。きり  
幸めととやくそ笑く。やをる魚籃を脊負つ。小唄うらうてゆりゆ  
痛くや。朝稚と。嚮小渦丸に取れ。時員が病多か救んとのおほせ  
かば。只音渦丸を追蒐さうとれ。渦丸と中途小埋伏く。矢庭に朝稚  
を縛りおめ。猿轡といふの尻銜く。魚籃の中に投入し網をさ  
と結びとめ。足が踏て小のりし。終小時員を殺して。行李踏銀が  
かく奪ひとれを。朝稚も魚籃の目の隙より。えし。さうりて。い  
そくおほせ。既小網裏の魚となりて。これか救ひと。雙言復た  
るが。おほせ。ぬきび渦丸が脊に負提られし。ゆらゆらに。いづくは  
せられとれ。物ともしひが。縛の索おのづら。緩に。は。密小ぬり  
解く。瑞反の短刀が抜出。魚籃の中より渦丸が背がごとと刺入









朝稚番小  
装られて  
洞丸と  
刺と



春

春説弓張月後高卷之六

春説弓張月後高卷之六







その伶俐の浦衣伯益が女おしけり。かればりて人小とせどて寔に  
まゝ養育す。その母も乳母ももつゝば為朝とてその朝もされ宿願の  
子ありて紀平治成りて阿蘇の社へ詣りしが。日ごとくゆりたり。町堂と  
山田の早稲刈入れんとて。草野おゆらぬ。よりて白燈親子待せし  
と。漫小苑子ま出木の子成拾ひておる也。今そかゝるも。朝維の庭門お境  
て入りて是らん家刀自たれとておぼせし。はなはなとて白燈お對ひおのれ  
と東國より。それとて父母成索と尋ねるなり。あはれ昨夜想しとて詩  
堂も後れと。その山も迷ひ入り。殊に疲乏とれば。おぼせし麓へ下れとて  
あはれねとては。雲時憩ひし。とて白燈は。くくえりて怪しむ。この  
山と昔より山の神れ。障たりとて。樵夫もくせし。登り来と。あはれおのれ  
只ひとり。迷ひ来とて。意成ひねえ。其の家と。人お訪れ。ゆりて。おぼせし。

雁回山 孝童父母成索  
水俣濱 小漢夫 為朝を祀

第三十回

朝維と彼婦人お本貫と。同れぬ。今とて。おぼせし。下野國足利の  
そのか。れ。彼。あ。く。生。れ。と。あ。め。は。親。族。の。あ。お。養。れ。七。七。の。夏。と。て  
六年。の。り。又。七。年。の。秋。成。り。物。と。は。は。り。な。ど。只。悲。し。は。七。七。年。の。前。親  
胞。と。て。あ。の。か。く。も。非。命。に。の。せ。成。去。れ。と。世。の。風。に。行。は。れ。迷。憾。へ。束。の  
あ。も。と。の。隙。の。ゆ。り。と。せ。あ。て。假。寝。の。夢。み。なり。も。今。下。り。び。父。母。の。あ。は  
は。り。と。且。暮。に。氏。神。お。初。り。と。り。し。ゆ。り。て。近。曾。不。思。議。の。示。現。と。成。り。養







友はつらうはして動じく目今拾ひし庭の木の子は朝稚のほりに置かざらむ  
 とれとて多くとてとれはむらりれ饗宴もさそぐ血脉の親なり朝稚それ成と  
 ちも把らざといふ婦人おのれ父成名告とれとてさう父よとこの童のさうひつ  
 れも故こそめらち父の痛室白縫姫と保元再宰府あり討死をさうりとは  
 せつと何となきとら海へり父の隠家おて成身ハさねがら白縫姫成見  
 ちも公持とせれ亡魂の幻成見えさうらうらつひふそれとは名告なり  
 されと海へはし恨とびおりのと小膝成さうり多人は白縫逢小引退とて  
 こい漫さる少年かまつらハ郎は曹司に由縁めれりのさうらとせれと侍す  
 ものれハ物さうりして孝行のさう中りともせんのがとさへさこそとてとれ  
 川へ縁も好もつた人あれとさうらとせれその白縫なりはいつ夜もとてに留む

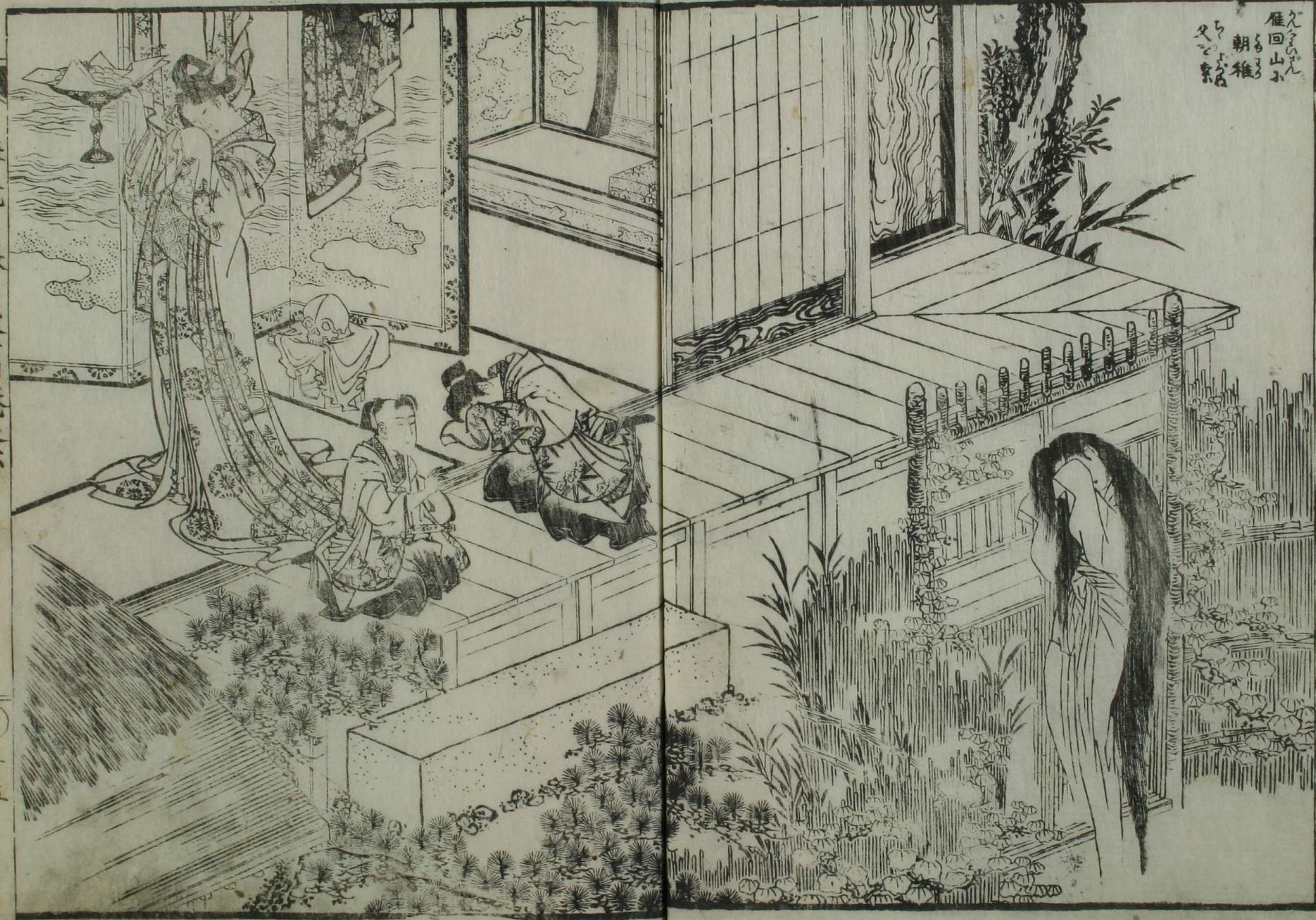
ちのら父く成賺して對面せし飲びとて面影成をせしとせれもせまはし  
 け且と浮世の義理と恩愛よかりひくてもかえがせれ一旦誓し武士の意  
 地が子痛として信成成忘れ名告めひまふ曹司かさんや成身が父上  
 かんたさうらとせれ成身付くてもさうりありかかん又白縫のさうら苦しとせれ  
 おりひなり継母の鬼じくして川も達せぬかと恨きたさひそよしや腹中宿  
 ささとも夫の子ならばらが為ちも親子の名世しめれりの成身困ちありひ  
 けんんや産ける子より今入いと惜しけれと柵となれはしもりた涙川  
 堰ちあかひし成成泣の男と男たさうひりておりひをせれせもあせづたが  
 今あさく今別世なは再會とえて圖かした母が悲しとさういかりんはし  
 訪れどはかくはでに物とせれおひもさせと世成怨み成成とさ  
 るむ言の歎とけれこの形とて雨の朝月夕よれおけけりおほひ



忘れよすぐはわらざればし。何れもこの世に生れて。短は親子の因ぞと。  
おひとえて東國へゆり。養父君よよく事。その家父嗣名と揚ぐ。武士  
の濫となり多り。これおまこと考とゆひ。生れたまへといふ声も涙も曇られ  
この山の両私不律じ。朝稚と名の家の。たおれぬあてその人さへ響りの  
猜し多り。も諭れ。道理おぬらび。同んやうもな。とあり。落れ涙拭ひ  
後つが父世おりの。も。我とちりて名告なまじ。と宣とれぬいくせふ。めじ  
う。父はれが。せあ。この世おりの。し。を。知りてゆは。辛さ。と。身で。某  
ほれ。いも。の。ん。密お名告。ま。ふ。も。世。代。潜。親の行方。子にして人。母  
漏さんや。情と慈悲ぞ。あ。して。と。か。れ。は。説。く。人。と。舜。天。丸。も。り。ひ。は。し  
て。目。拭。ひ。や。母。の。う。が。お。も。の。か。う。お。れ。見。上。の。は。し。ま。ら。ば。楽。く。堪。び  
書。え。り。の。成。な。ど。と。お。れ。人。の。在。る。な。ぞ。今。より。この。子。成。さ。ぬ。お。れ。た。が。見。上。は。し

そな。と。の。ら。れ。後。白。蓮。と。忍。び。よ。て。よ。と。注。二。親。の。の。ら。後。へ。同。胞。よ。ま。そ  
の。と。は。し。見。ま。牆。に。聞。ご。も。外。務。成。禦。と。か。申。ぬ。れ。詩。お。あ。う。と。ま。く。良。朋  
の。と。も。中。め。し。れ。同。胞。お。の。劣。了。か。ん。況。く。兄。弟。莫。逆。あ。て。親。と。ぬ。く。孝。順  
た。れ。子。成。り。の。親。の。樂。と。成。お。り。ひ。や。れ。行。刑。か。や。その。を。ら。は。し。も。宿。ま。縁。と。  
これ。も。子。成。り。そ。お。と。あ。も。家。兄。の。志。も。四。り。は。で。め。り。と。は。つ。え。て。と。れ  
木。の。こ。か。と。も。な。れ。世。の。義。理。よ。か。れ。歎。れ。を。す。れ。ぞ。し。悲。と。り。成。ひ。出。て。  
瘡。成。ま。じ。し。ま。ひ。も。と。賺。し。に。し。ら。ん。中。や。に。刃。起。て。奥。ま。う。た。れ。家。廟  
を。押。し。た。ぬ。り。と。れ。桂。成。と。り。出。て。朝。稚。の。ほ。り。に。置。少。年。よ。く。ま。し。も。え  
こ。の。実。に。心。成。が。父。上。の。り。成。さ。ら。ぬ。あ。う。お。れ。お。の。七。年。以。前。の。夜。の。夢  
お。年。紀。と。十。に。ら。う。た。女。子。こ。の。か。が。枕。方。お。立。在。る。れ。の。と。と。な。よ。め。り。と。  
人。を。待。り。の。ま。り。何。地。へ。も。葬。埋。れ。る。成。せ。ど。と。に。お。し。ま。人。と。告。げ。と。ら。て。





久松山小  
雁回山小  
朝推  
又と糸

春月長月後月明光二六

木言別冊行年卷之六

十四



驚たえまは。枕方にこゝの袿と鞆腰あり。今もこゝありへを。あなまが。面を。その。所  
 爰え。女子に背より。かかれど。こゝは。産の。母子。あて。その。子。か。に。枝。ふ  
 や。めり。けん。は。し。や。爹。に。達。せ。も。これ。を。携。東。國。よ。ゆ。り。その。な。れ。浦。次。吊  
 め。こ。の。海。慰。む。も。めり。あ。ん。是。又。多。と。い。ひ。り。て。江。ほ。と。袿。の中。は。褰  
 鞆。腰。を。朽。そ。し。骨。身。に。入。れ。情。の。賜。朝。稚。と。涙。の。間。ふ。と。又。か。う。ん。と。く  
 押。戴。た。か。り。果。と。れ。面。影。は。眼。も。暗。く。消。残。れ。形。見。の。鞆。腰。と。袖。も  
 載。し。う。ん。と。す。れ。と。胸。か。かり。漲。て。落。れ。涙。の。曝。布。と。堰。か。れ。と。白。蓮。も  
 い。と。玉。ろ。と。膝。の上。小。携。は。れ。と。舜。天。丸。も。り。海。も。に。泣。ま。ふ。これ。は。又。彼  
 女。お。り。か。あ。も。白。蓮。の。ま。の。忍。び。め。ど。は。し。や。か。夫。の。志。少。の。情。れ。も。明。白。ふ  
 名。告。め。ひ。一。夜。あ。り。と。も。留。め。あ。れ。と。親。子。の。對。面。さ。と。と。れ。れ。い。ま。志。し。て。ふ  
 良。人。より。我。康。や。へ。義。理。と。い。は。と。も。か。く。も。埋。木。の。花。さ。く。よ。う。が。さ。れ

親と和の洛へ潜ひのり。清盛と唯雄が決。彼も勝とも負れとも。洛へ  
 ゆ。わ。つ。が。夫。婦。の。長。く。も。あ。れ。魂。の。緒。次。恩。愛。に。結。あ。れ。と。人。の。信。義。を  
 跌。て。と。つ。が。才。む。つ。の。悞。り。と。い。ひ。う。て。言。え。又。か。あ。り。た。り。や。よ  
 少年。主人ととの。阿蘇の神社。お詣り。し。と。ゆ。り。な。り。と。奴。婢。も。山。田。の  
 縁。お。違。さ。れ。れ。と。響。應。も。意。に。あ。う。せ。と。山。家。が。な。れ。と。木。の。子。の。外。あ。り。の。に。あ。け  
 と。と。飢。み。凌。ぐ。む。り。に。と。粟。の。飯。も。と。と。れ。せ。り。い。と。進。ら。せ。ん。と。く。ま。ま。あ。れ  
 朝。稚。忙。し。く。江。と。と。め。敷。た。小。胸。の。こ。ゆ。さ。が。り。て。物。ほ。あ。ら。い。め。と。母。の。鞆。腰。を。賜  
 れ。の。氏。神。の。示。現。は。違。秘。と。父。の。み。か。つ。ひ。と。え。直。に。ゆ。り。ゆ。い。と。ん。と。し。父。上。の。存  
 命。と。く。へ。ま。ま。あ。り。の。め。へ。下。野。な。れ。朝。稚。が。あ。り。し。と。侍。人。て。と。と。と。遠。憾。や  
 と。ば。う。り。に。像。見。の。袿。う。ら。疊。涙。お。累。む。白。骨。に。お。く。雲。の。衣。ぞ。哀。れ。る。白。蓮。の  
 臂。近。な。れ。盒。の内。より。金。の。鞆。一。對。を。と。り。出。し。と。い。主。人。が。指。さ。り。に。年。長。和。義













母の囃子  
朝推  
下野へ

春の長月後宮

本語



は跳びて雅君の素衣を奪ひ何地かひひけん。追ひつゝええあつた。却る  
初をわへんとしひつれ。大男血雨を降れ。雲叢の中に死する折しも。出づ月  
めて。魚籃に結著し。雅君の遺翰をよみて。じりて涙を流す。あはれ  
と。いももつる。舟に一箇処の。手残も負されむ。は夢の。さして。好む  
ひ魚籃の内。又それ。齋したる。白幣の。真中。又及び。刺徹せし  
跟のり。さて。正八幡。が。あかり。に。まゐる。さ。さ。し。物。体。は。し。と。い。つ  
ら。て。神と君との恩恵。が。し。と。幣。も。に。遺。る。人。れ。今。我。懐。は  
。通。宵。の。行。方。が。索。も。り。そ。か。か。ば。も。ら。に。行。の。い。ち。め。れ。喜。し。と。ま。そ  
る。審。に。迷。を。り。件。の。幣。を。進。め。それ。い。け。あ。も。せ。ら。中。に。太。刀。残。あり。その。為  
体。不。思。議。と。し。あ。も。の。ま。う。の。れ。朝。雅。と。幣。取。て。数。回。お。戴。れ。好。く。大  
神。の。擁。護。を。感。謝。す。時。員。に。宣。ふ。か。う。未。世。と。い。ふ。も。神。明。至。誠。と。守。り

た。い。ふ。斯。の。ご。じ。これ。昨夜。燐。火。に。御。導。せ。られ。彼。処。の。山。寨。に。到。り。  
實。母。彫。江。の。體。骸。が。い。り。彼。燐。火。も。汝。が。亡。魂。の。道。に。照。ら。と。か。と。お。ひ  
げ。お。さ。て。彫。江。の。導。を。と。この。山。小。誘。引。は。れ。な。り。か。れ。る。中。え。の。り。し。と。て。  
白。燈。の。い。ひ。諭。した。る。舞。天。丸。の。の。ち。ら。も。形。く。は。え。ち。し。と。い。ふ。  
時。員。あ。ら。く。嗟。嘆。し。と。そ。の。疑。ふ。べ。う。も。あ。ら。ね。御。父。八。郎。君。の。嫡。室。白。蓮。姫  
あ。ら。お。つ。を。れ。な。ら。ん。彼。婦。人。と。保。元。の。播。乱。に。父。忠。國。の。孫。も。に。宰。府。に  
て。討。た。た。ま。ふ。あ。の。い。と。この。山。小。脱。と。ま。ふ。の。致。あ。ら。は。八。郎。御。曹。司。を  
潛。り。大。嶋。と。脱。と。ま。う。夫。婦。の。と。ら。は。れ。山。賊。一。更。一。子。が。拳。た。ま。り。も  
あ。れ。さ。う。い。は。誘。も。人。今。一。度。その。と。ら。ひ。索。ゆ。さ。て。の。の。真。偽。が。同。諦。に  
さ。ん。と。ま。う。は。朝。雅。も。い。と。遠。憾。ければ。主。後。好。く。び。山。に。登。り。ん。と。い。ふ  
み。奇。な。れ。の。白。雲。聳。然。と。して。前。に。遠。く。忽。地。小。山。が。包。く。何。地。を。行。て



登れべらもゆふに主後ゆびこの不思議をえと。さて父子の再會の  
 神の許したまのゆめや。今は是れにておろ。とありひとえ。次の日豊後不出と。  
 且暮に道をいそぐ日教経よりて野別足利へらかり。養父義康小道と  
 かりのり。木原山にてのりかたかり。觸體と鞠をとり出とせせむじ  
 ちめに義康これを入とせむじ。感涙を押し朝維が至孝の天地神明の  
 冥加ありて実母の枯骨が多りけり。寔小不測の應報といふに且この  
 鞠ハつが祖父八幡太郎義家朝臣牛物と名つけて秘藏とせられぬなり。  
 嫡孫為我これを相付し。その後為朝小授るは豫て付されとあり。ちよふ為朝  
 大嶋の館よ火放りて虚死し。密小肥後の木原山に脱れし。白徳小環會  
 一子成入世なれるる。ちよふも彼人の蓋世の義士なれば子も他も名  
 告より朝維面あり父よありとていども。その像見として牛の鞠が

寔母の觸體を携て去りぬれば孝子の本意が遂に廢相構とあり。むせ  
 漏しにへくびと密語を厚く時實が分らひこれハ引出物影賜。又鯨江が觸  
 體ハ大嚴山の昆沙門堂に葬りて為頼鬼夜又追善に至れり。佛堂ハ  
 執行しありとせられ彼瑞友の刀牛の鞠とまぐ足利の家に行り。その氏  
 のと二男基氏小これ瓜賜ふ基氏より氏満満兼持氏と管領四代に相傳  
 りひけり。時小應永二十二年十一月九日持氏朝臣代々の重宝瑞友の刀牛の  
 鞠が合身奥列の箱村殿に賜ふは鎌倉大草紙にええり。是とておれ  
 朝推ハ十四歳にて元服し足利太郎義包と名付り。此年養父を康  
 卒去ありし。舊説小義康と保元二年五月家康老黨相議して我包朝維を傳ふ。  
 足利の家督とてかくて我包は足利の八幡宮に神田影寄附し又足利の學校ハ  
 幡宮に勸賞して祭祀のしく壯嚴を加へ學校の法よりん件の學校を往昔小野



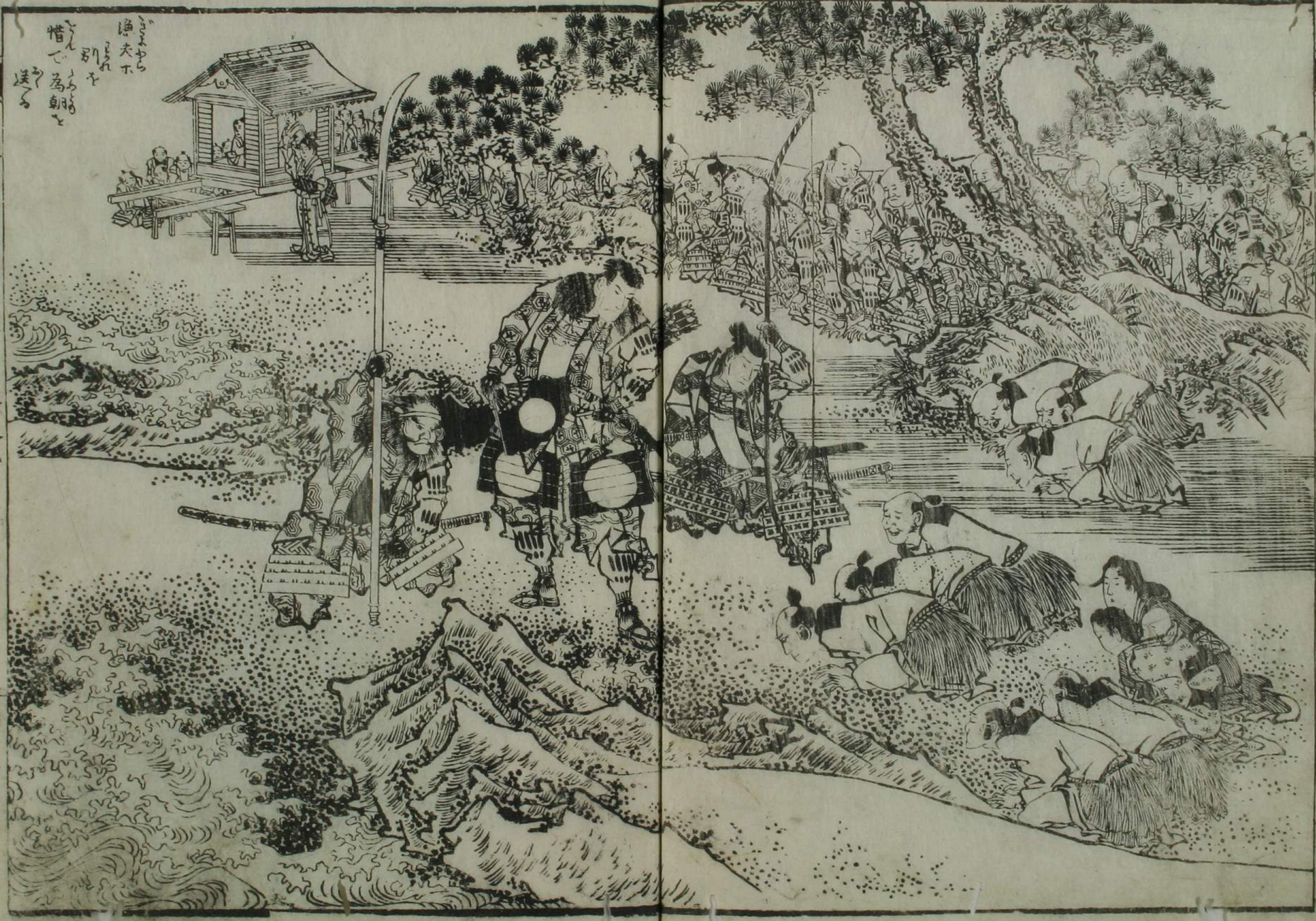




夜討ちて父兄の冤を雪ひざし。あかば勝とも負れとも。生てゆきし日  
らじ。とどひ定め多し。白獲舜天丸をも相俱し。主後僅ふ二十餘人。本原  
山立出。水俣の海辺。舟赴た多めに。年事此よりある。漢夫。ホが滅びて運  
びとれる。忘れざけし。浦の耆老。又。く言ふ中。これこの地。も。位。び  
て。四國のか。え。ゆ。て。位。と。と。為。求。んと。あ。ふ。なり。あ。う。れ。が。再。會。へ。と。う。り。が。じ。木  
原山の館。の。さ。り。舟。一。重。つ。る。衣服。凋。度。の。さ。る。浦。人。よ。り。さ。れ。な。れ。が。  
汝。ホ。よ。り。配。分。よ。う。と。う。り。渡。海。を。な。れ。ば。一。船。二。艘。を。出。せ。し。と。仰。せ  
て。船。の。價。代。を。し。ま。く。へ。浦。人。ホ。曹。司。なり。と。ん。と。毎。戸。小。老。を。助。け  
幼。を。抱。て。走。り。出。つ。が。君。さ。と。て。情。も。も。り。棄。て。四。國。へ。移。り。位。ん。と  
そ。方。を。と。れ。ぞ。お。じ。く。の。地。を。一。生。が。過。し。ま。く。吾。倚。る。月。心。を。竭。し。て  
調。し。ま。れ。ば。お。と。し。し。つ。或。ハ。直。垂。の。袖。奴。袴。の。裾。小。り。携。り。て。放。る。

為朝もつと不便なりとおぼせども。かてあれは。あ。り。排。ひ。つ。  
浪。打。際。へ。歩。こ。な。り。あ。れ。浦。人。ホ。と。な。り。長。暮。し。て。と。る。る。遠。ふ。直。垂。の。片  
袖。が。彫。離。けり。その。と。れ。紀。平。治。高。間。太。郎。と。浦。の。耆。老。が。催。促。を。し。船。二  
艘。を。出。せ。その。一。艘。は。為。朝。白。獲。を。乗。せ。わ。せ。二十。餘。人。の。郎。黨。從  
つ。り。又。一。艘。の。船。再。八。町。磯。紀。平。治。舜。天。丸。を。か。れ。抱。き。て。上。座。お。け。し。高。間  
太。郎。磯。萩。以下。十。餘。人。の。郎。黨。これ。ふ。さ。さ。ひ。掲。を。操。り。帆。が。揚。て。蘆。北  
郡。水。俣。の。海。辺。より。濱。村。を。嚮。こ。う。れ。渺。い。た。れ。大。洋。が。ゆ。へ。も。ま。つ。つ。ば  
あ。り。な。り。ふ。時。高。倉。院。の。安。元。二。年。八。月。十五。日。の。り。浦。人。ホ。と。只。嬰。兒。の  
母。が。慕。め。ぬ。異。な。り。ふ。て。母。が。あ。げ。て。は。拵。え。声。が。限。り。に。鳴。び。く。せ。と。も。や。あ  
か。ひ。も。あ。ら。ぬ。の。う。ら。し。ま。さ。れ。より。外。中。を。さ。さ。く。懸。と。ま。り。けり。か。た。し。た。は  
水。俣。の。浦。人。と。為。朝。が。仰。慕。し。て。濱。村。に。生。祠。が。建。直。垂。の。袖。を。り。て。神。体





漁夫下  
別れ  
惜し  
送る  
為朝

春兌弓長月夜吉浦卷之六

本言正史月夜吉浦卷之六

七四

九三



と。これを矢八の宮と稱ふ。今小至く。八月十五日に祭祀あり。供物あり。小豆飯。鮮鮓。醴酒の三種を献て。翌年みおれの日。扉以用て。くへるに。飯も鮓もよく乾て。醴も味ひかたれとす。この供物を。扉なども。おれく。食へど。し。監と食ふ。扉あれば。忽地死す。いり。この天八の宮も。荒神あて。まじ。と。と。祭祀の日な。では。神扉以用と。人。疱瘡の平安。祈。お。應。驗。のり。といふ。又。蘆北郡。津奈木。といふ。漢村。あり。為朝の宮と稱ふ。れ。小社あり。と。み。収。袴。以。神。体。と。と。といふ。この外。あり。括。列。伊。丹。の。南。あり。為朝。八。幡。と。稱。れ。神。社。あり。又。尾。刈。岡。森。小。為朝。の。神。社。あり。と。と。夫。死。し。と。滅。され。これ。を。神。と。い。ふ。苟。も。俊。德。の。人。よ。め。ら。げ。と。千。載。の。下。に。庶。食。ま。と。り。み。ひ。ん。や。余。嘗。為朝。の。武。德。以。稱。さ。る。と。い。ふ。依。て。今。の。小。説。以。傳。じ。り。畢。竟。為朝。夫。妻。父。子。主。従。水。俣。より。秘。出。して。又。い。う。た。れ。物。び。り。の。め。

その拾遺六冊の園とてなれは。

○追考甲陽隨筆小云巨摩郡武川條武田村の西南上宮地村也武田八幡宮あり社頭の雄山の内鎮西八郎為朝の宮あり里人疱瘡平安の願がけをこれに應驗ありといふ古老の説也為朝伊豆の大島より鬼童がねとて脱と信と多し。今も斐崎の船山小為朝の遠的射多しつれとて信あり。彼鬼童の信とれ迹也。ワノ塚と稱ふ。あつれも為朝の甲斐小信と多しひねといふ。無稽言の談なり。疑ふらくと。浅原八郎為頼の古迹なれを誤伊く。鎮西八郎為朝といふ也。為頼は甲斐源氏なり。巨勢郡中郡條浅原村也その出生の地なりといふ。馬琴按ぞれ小鎌倉將軍譜正應三年の條下小云三月甲斐源氏浅原八郎為頼強弓の大力なり。諸國お於て悪逆なること故に所領



を没収し。群國にして尋索し。為頼潛ふ京に入り。夜内裡不到り。紫  
宸殿中籠れ。武士これを攻め及ぶ。為頼自殺す。その故と為の  
矢小太政大臣為頼と云れせり。以かれハ甲陽上宮地村を為朝の宮ハ  
浅原ハ即為頼の悪霊を鎮ふと云れり。因中今こゝに録せり。かれ  
此傳るは多う。

椿説弓張月後篇卷之六 畢

毎篇歳とその期よかく是を發販し。五篇三十冊より。く  
完璧と成り。曲亭先生著作数百種の中より。多しとを  
珍賞せし。此一奇書なり。

戊辰新春發行

本所松坂界  
書舗 平林堂主人誌

和漢 西洋 書籍 賣捌 處

大阪心齋橋博愛町角

群玉堂河内屋 岡田茂兵衛



